

5 「美の滋賀」づくり

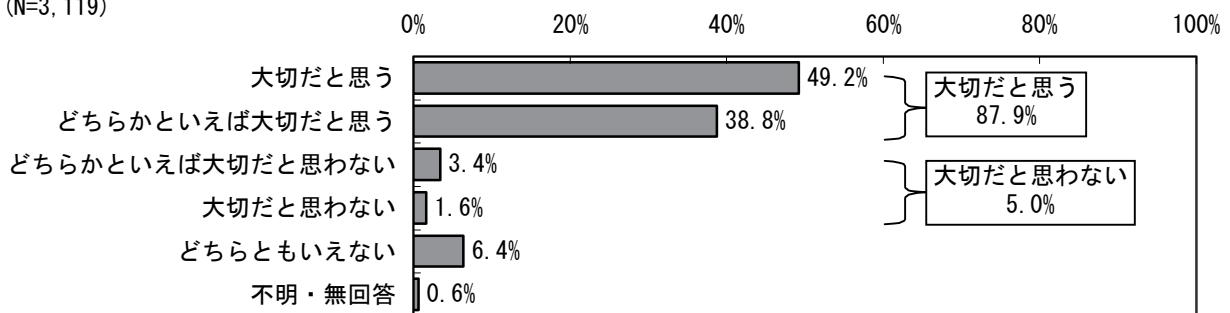
(1) 日常生活で美に触れる重要性

問25 あなたは日常の生活の中で、美を鑑賞したり、触れたり、守ったり、あるいは創作活動に関わったりすることは大切だと思いますか。(例えば、美術館での鑑賞やアートフェスティバル、ワークショップへの参加、お住まいの地域での文化財を守る活動など)(〇は1つだけ)

◆「大切だと思う」が49.2%

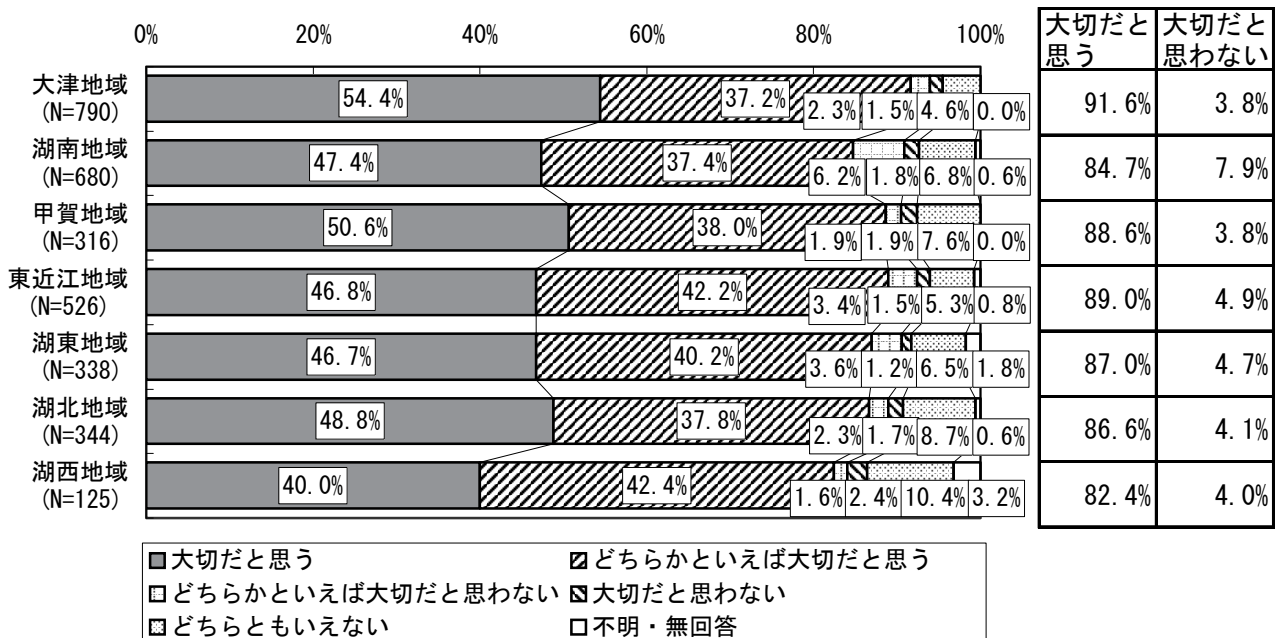
日常生活で美に触れる重要性については、「大切だと思う」が49.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば大切だと思う」が38.8%となっており、これらを合計した『大切だと思う』は87.9%となっている。『大切だと思わない』(「どちらかといえば大切だと思わない」と「大切だと思わない」の合計)は5.0%となっている。

(N=3,119)



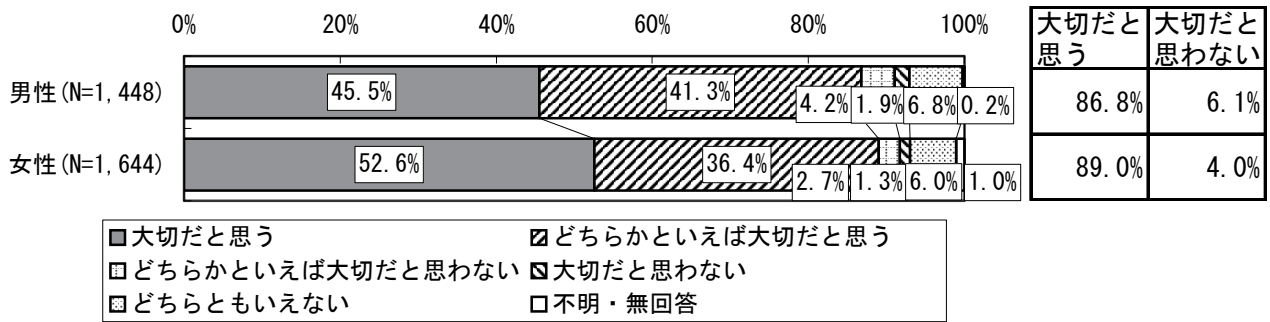
【地域別】

『大切だと思う』は、大津地域が91.6%で最も多く、その他の地域も8割台となっている。



【性別】

『大切だと思う』は、女性が89.0%、男性が86.8%となっている。



【性・年代別】

『大切だと思う』は、男性の20歳代と30歳代では89.6%、男性の60歳代では88.0%となっており、男性の他の年代に比べてやや多くなっている。また、女性の20歳代～40歳代では9割を超えており、50歳以上に比べて多くなっている。

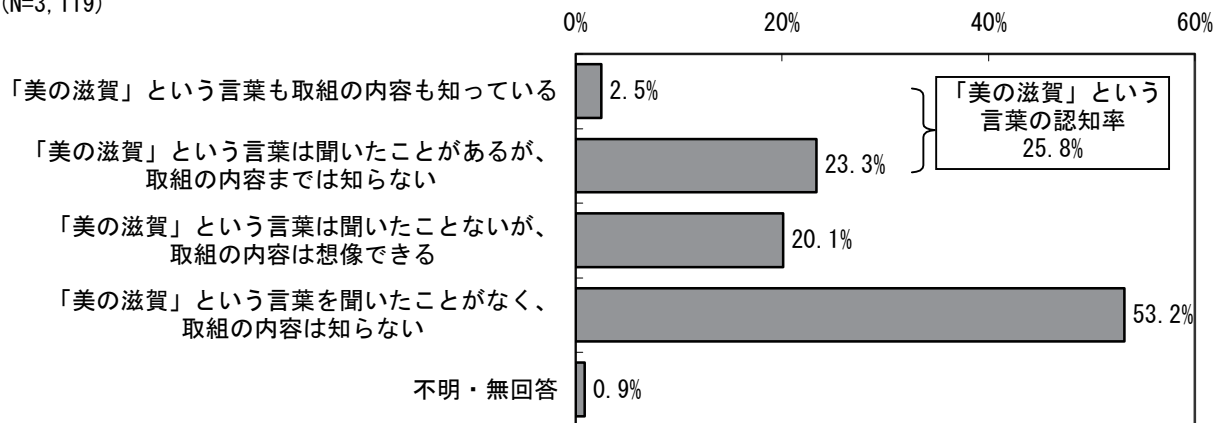
(2) 「美の滋賀」づくりの認知度

問26 県では、全国第4位の国宝・重要文化財数を誇る神と仏の美、県立近代美術館に収蔵されている近代・現代美術、滋賀ならではのアル・ブリュットなどを「美の滋賀」として発信する取組を進めていますが、あなたはご存じですか。(〇は1つだけ)

◆ 「美の滋賀」という言葉の認知率は25.8%

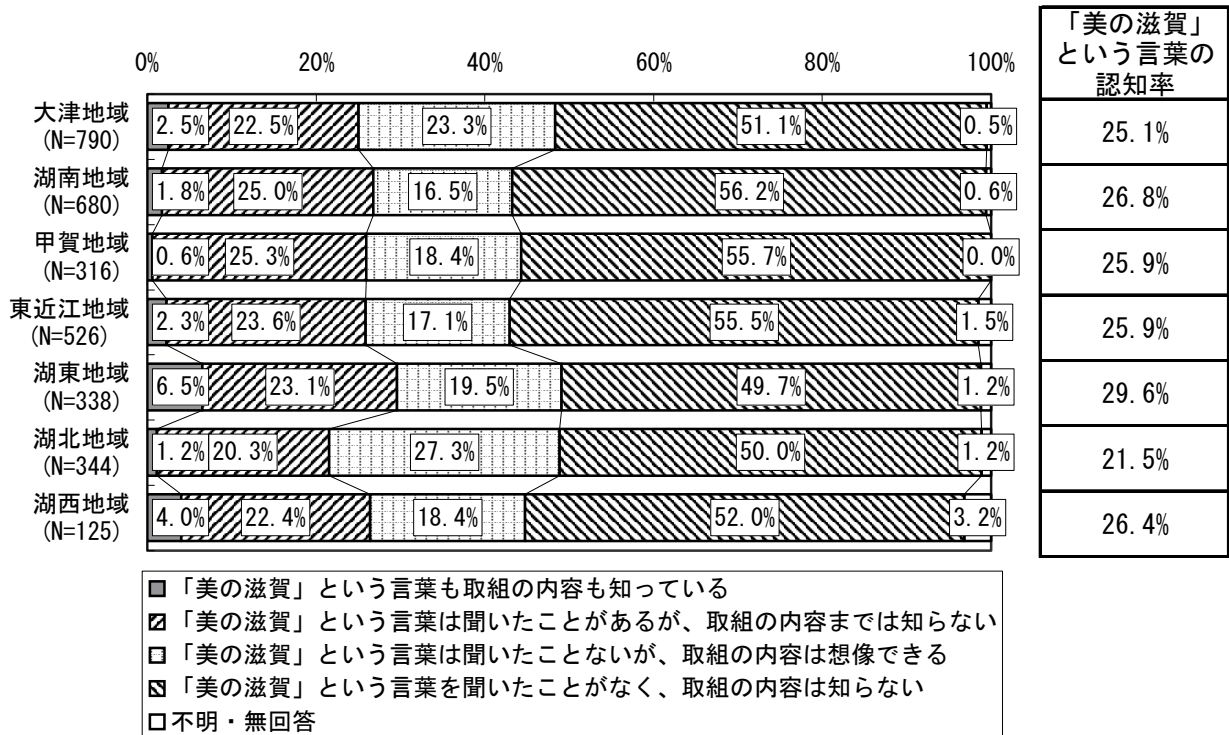
「美の滋賀」づくりの認知度については、「美の滋賀」という言葉の認知率(『美の滋賀』という言葉も取組の内容も知っている)と『美の滋賀』という言葉は聞いたことがあるが、取組の内容までは知らないの合計)は25.8%となっている。また、「『美の滋賀』という言葉を知ることがなく、取組の内容は知らない」は53.2%となっている。

(N=3,119)



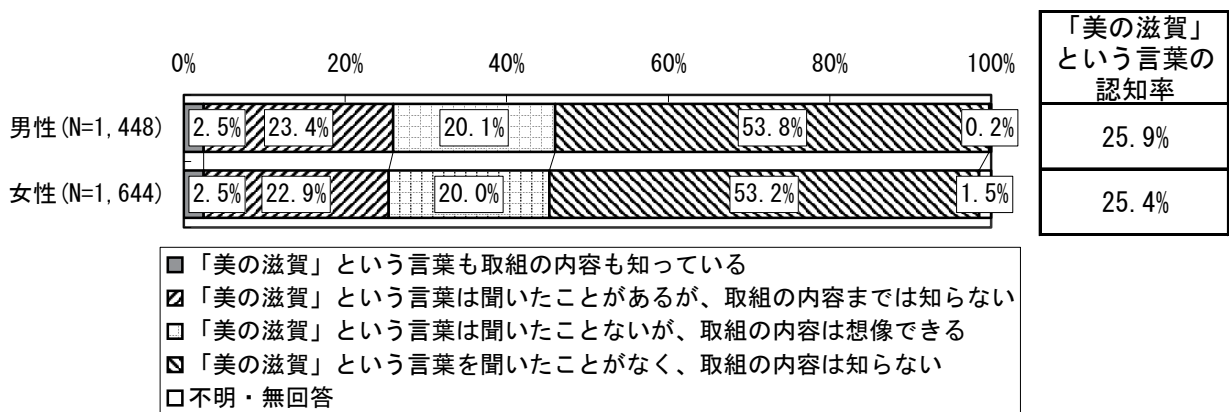
【地域別】

「美の滋賀」という言葉の認知率が最も高いのは湖東地域で、29.6%となっている。また、いずれの地域においても「『美の滋賀』という言葉を知ることがなく、取組の内容は知らない」が最も多くなっている。



【性別】

「美の滋賀」という言葉の認知率は、男女ともに25%台となっている。また、「『美の滋賀』という言葉を知ることがなく、取組の内容は知らない」は、男女ともに5割台となっている。



【性・年代別】

「美の滋賀」という言葉の認知率は、男女ともに60歳以上が50歳代以下に比べて高くなっており、男性の60歳代では36.4%、男性の70歳以上では39.4%、女性の60歳代では41.9%、女性の70歳以上では46.5%となっている。他方、「『美の滋賀』という言葉を知ることがなく、取組の内容は知らない」は、男女ともに50歳代以下では5割を超えている。

(3) 「美の滋賀」づくりの参加意向

問27 「美の滋賀」の取組は県民の皆さんにご参加いただきながら進めていくものと考えていますが、あなたは次のような活動について参加したい、あるいは参加してもよいと思われませんか。1～10のそれぞれの項目について、右の欄の1～5の中から当てはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

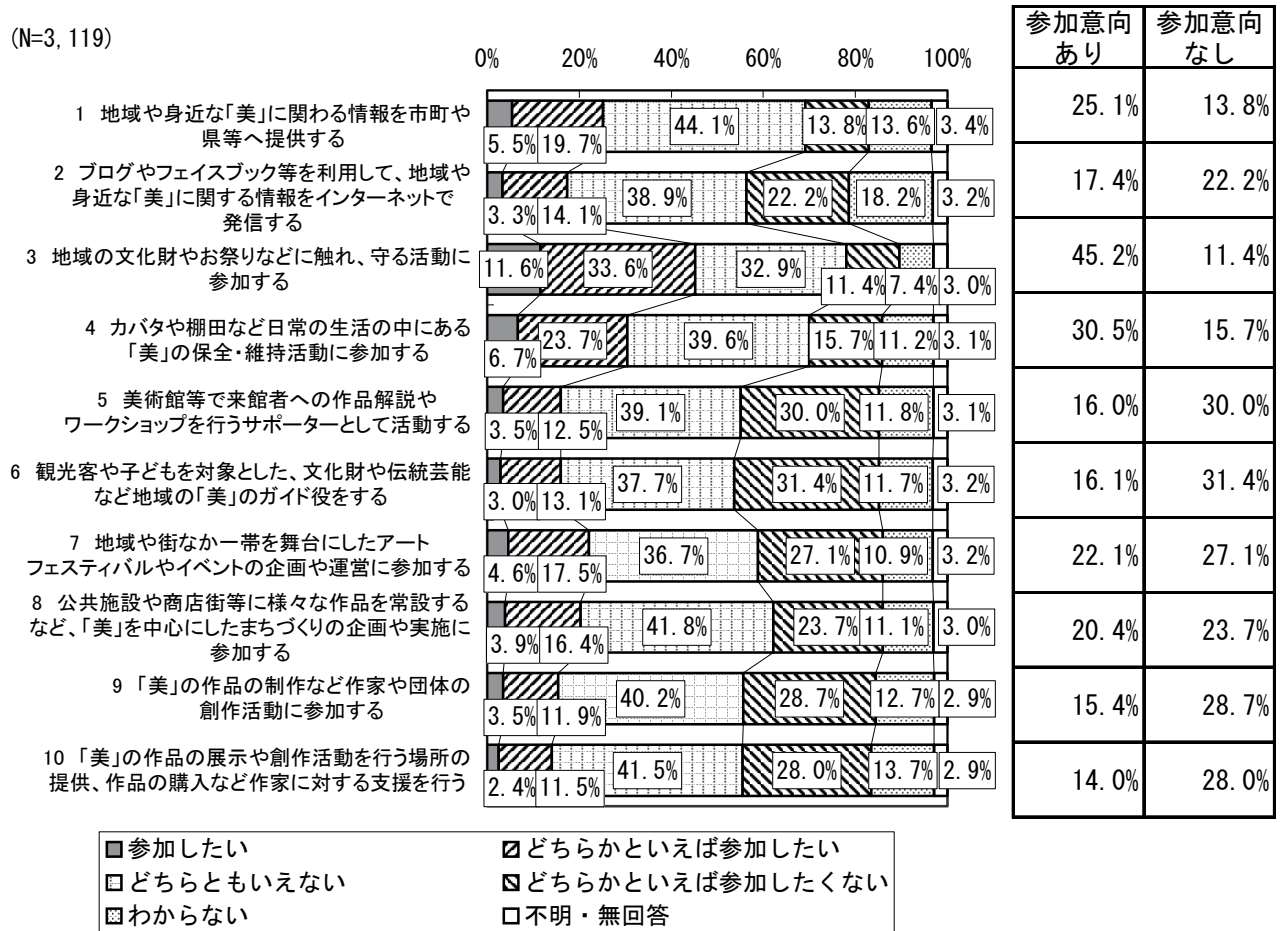
※参加意向あり：「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」の合計

※参加意向なし：「どちらかといえば参加したくない」

◆『参加意向あり』が最も多いのは「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」で45.2%

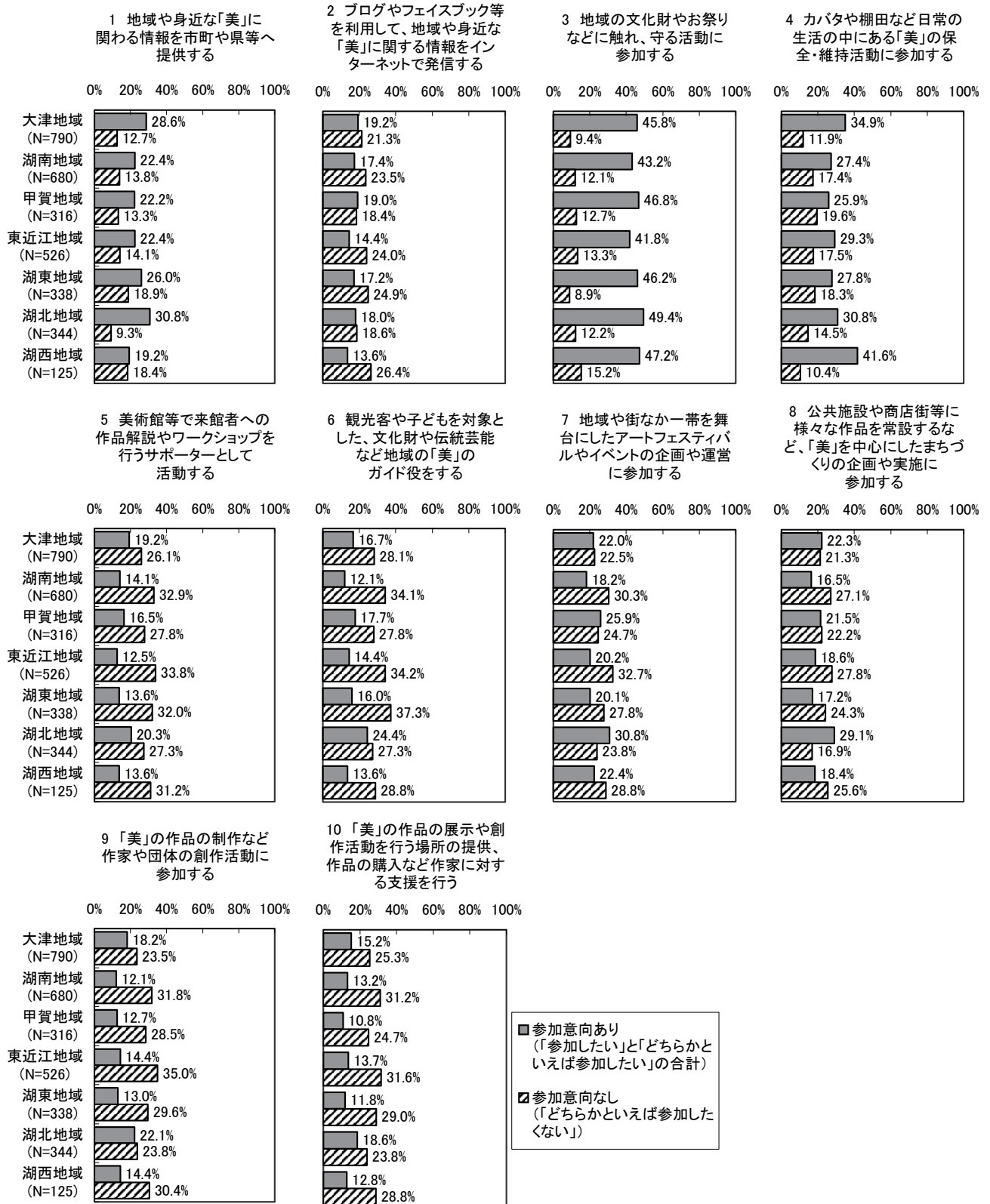
「美の滋賀」づくりの参加意向については、「地域や身近な『美』に関わる情報を市町や県等へ提供する」「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」「カバタや棚田など日常の生活の中にある『美』の保全・維持活動に参加する」の3項目で『参加意向あり』が『参加意向なし』を上回っている。特に「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」の『参加意向あり』が45.2%で最も多くなっている。

(N=3,119)



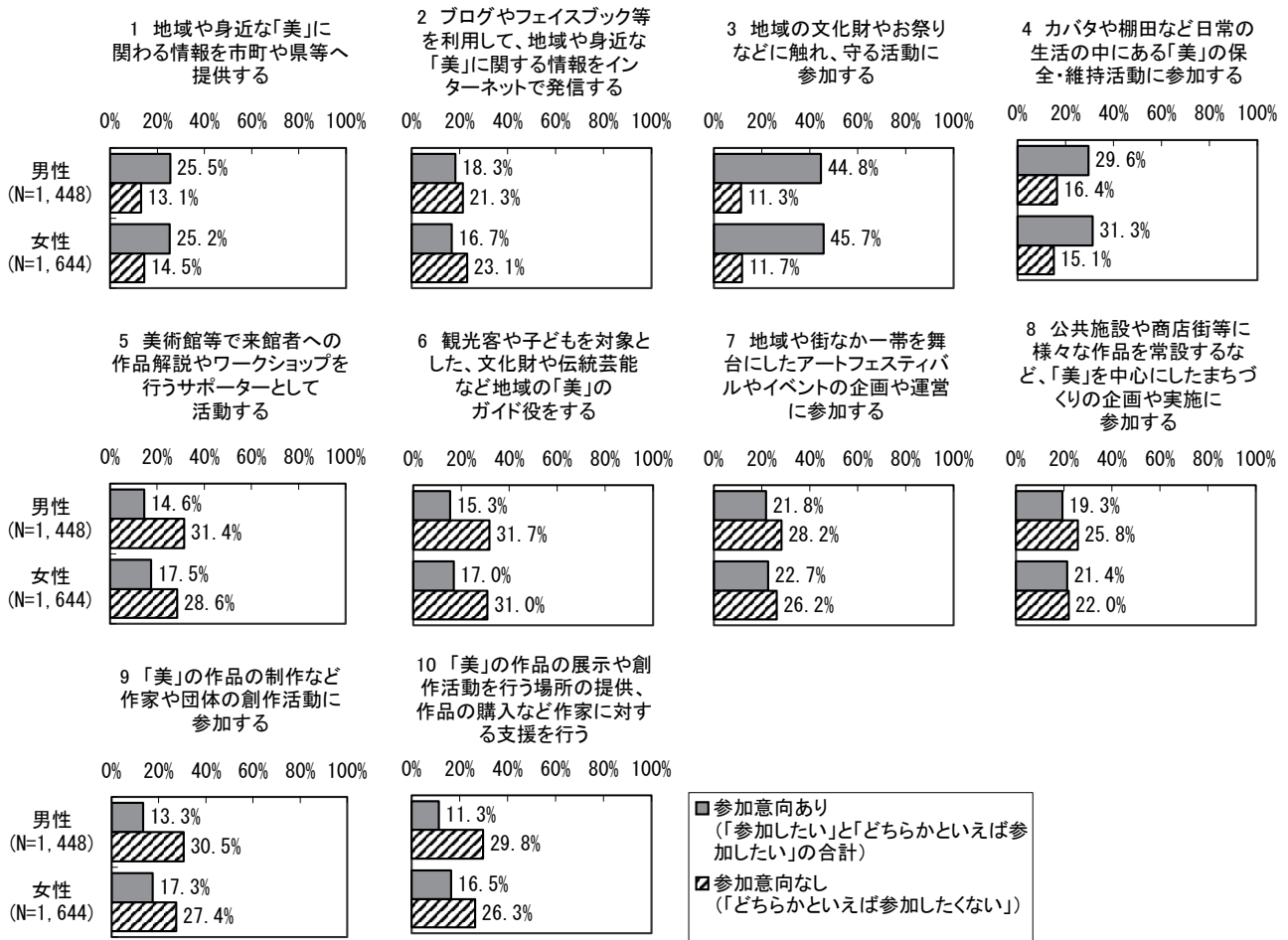
【地域別】

『参加意向あり』は、いずれの地域においても「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」で最も多くなっている。「地域や身近な『美』に関わる情報を市町や県等へ提供する」「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」「カバタや棚田など日常生活の中にある『美』の保全・維持活動に参加する」は、いずれの地域においても『参加意向あり』が『参加意向なし』を上回っている。



【性別】

『参加意向あり』は、男女ともに「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」で最も多くなっている。「地域や身近な『美』に関わる情報を市町や県等へ提供する」「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」「カバタや棚田など日常の生活の中にある『美』の保全・維持活動に参加する」は、男女ともに『参加意向あり』が『参加意向なし』を上回っている。



【性・年代別】

『参加意向あり』は、いずれの性・年代においても「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」で最も多く、男女ともに20歳代で最も多くなっている。「地域や身近な『美』に関わる情報を市町や県等へ提供する」「地域の文化財やお祭りなどに触れ、守る活動に参加する」「カバタや棚田など日常の生活の中にある『美』の保全・維持活動に参加する」は、いずれの性・年代においても『参加意向あり』が『参加意向なし』を上回っている。